



小児在宅ケア研究会会報 第8号

平成 25 年 8 月 23 日

【第9回小児在宅ケア研究会 年次集会のご報告】

平成 25 年 6 月 15 日（土）に、第9回小児在宅ケア研究会年次集会が、「子ども・家族にとっての在宅ケアの意味とその共有」をテーマに、名古屋大学大幸キャンパスで開催されました。今年度は 160 名近くの方に参加頂き、様々な意見交換が行われました。

年次集会では、活動報告 1 件、事例検討 2 件、そして講演が行われました。活動報告では、小児専門病院の地域医療連携室看護師の方が、お子さんやご家族がそれぞれの家族らしく生活していく事ができるよう、病棟や外来そして地域医療機関との具体的な連携の様子を報告されました。他職種との連携は困難な事も多く、連携の方法に関して質疑が行われました。事例報告では、初めて人工呼吸器を必要とするお子さんの在宅ケア移行への支援を行った看護師の方と、不安が強い状況で在宅ケアをはじめたご家族への支援を行った訪問看護ステーションの方が、それぞれの看護実践について紹介され、活発な意見交換がされました。小児の在宅ケアを支えるためには、そのお子さんや家族が何を望んでいるのかという事が、とても重要な事となり、その希望をかなえるために、他職種の連携が必要である事を再認識する機会となりました。



講演は、「小児の在宅ケアを支えるチーム医療 —理学療法士の立場から」タイトルで、福岡の麻生リハビリテーション大学の松崎哲治先生のお話をお聞きする事ができました。お話の中では、障がいのあるお子様たちの姿勢を整える事が非常に重要であり、よい姿勢を維持できることが、その人らしくある事を支える事にまでつながっていると実感することができました。また、先生が日々障がいのあるお子様たちと様々な形で楽しく一緒に時間を過ごされているお話を聞き、障がいがあるないに関係なく、1 人の人として相手を尊重して人と関わる事がとても重要であることも再認識する事ができました。そして、どのような職種であっても、お子様やそのご家族が、その人らしくまたその家族らしく生活できるように支援する事が共通の目標であり、そのために、それぞれの職種が専門的な能力を発揮しながら連携していく事が重要であると強く感じました。



また、今回参加していただいた方のうち 116 名の方がアンケートにもご協力くださいました。参加者の半数近くが東海地方（愛知・静岡・岐阜・三重）の方で、次いで近畿地方の方が多く参加されていました。遠くは、宮城県や香川県などから参加された方もいらっしゃいました。経験年数は 11～20 年の方が最も多く参加されましたが（34%）、6～10 年目の方も多し（28%）という傾向が見られました。全体の感想としては、約 90%の方が「満足した」又は「少し満足した」と回答されていました。様々な施設での実践的な取り組みを聞くことで、小児在宅ケアに関する困難さなどを共有されるとともに、その困難に対してあきらめずに取り組んでいく事の重要性を感じられたのではないかと、皆様に書いて頂いた自由記載を見ながら感じました。今後の研究会活動への要望等も様々ないただいておりますので、この皆様からの頂きました貴重なご意見を、今後の活動に反映させて

いきたいと思っております。アンケートにご協力いただきました皆様、ありがとうございます。アンケートの詳細は、資料として同封させていただきますのでご覧ください。

第9回年小児在宅ケア研究会年次集会は、多くの皆様のご協力のもと無事に終了する事ができました。ありがとうございます。また来年の年次集会で皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

【会員からのメッセージ：第9回小児在宅ケア研究会年次集会に参加して】

地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立母子保健総合医療センター 宮村友美

小児在宅ケアコーディネーター研修会受講をきっかけに、研究会に入会してから数年が経ちましたが、その中で毎年年次集会への参加を楽しみにしています。職場では急性期を脱して慢性期へ移行し、在宅療養へ向かう患児とその家族と長年に渡り関わりを持ってきました。その中で、在宅療養に向けて必要な準備、家族の心理に配慮をした上での関わり方など、職場での経験を通し多くのことを学びました。しかし、在宅療養へ移行する多くの事例と関わる中で、時々私が行っている関わりが、家族にとって一方的な押し付けになっていないか、また多くの事例と関わる中で得た経験から、家族をある方向に誘導しているのではないかと感じることもありました。その中でこの研究会の年次集会に参加することは、自分自身の日々行っている家族への関わりを見直す機会になっています。いろいろな立場の方の事例を通した発表を聞く中で、自分の関わりを重ね合わせ、在宅療養に向かう患児とその家族の生活をより質の高いものにしたいと考え、日々実践していることが間違っていなかった、という振り返りができることがあります。また、もう少し在宅療養に向けて指導するにあたり、視野を広げて関わる必要があるなど多くのことを感じ、自分の行動の修正すべき点に気付くこともできました。様々な立場で小児在宅ケアに関わっている方が集まることで、いろいろな視点での意見交換ができ、その学びを持ち帰って同じ目標に向かってさまざまな場所で実践し、またその活動報告を聞くことができるこの年次集会はとても貴重な場であると感じています。今後もこの年次集会への参加を通し、日々の看護を見つめなおしながら職場で実践していきたいと考えています。

【第9回小児在宅ケア研究会総会のご報告】

第9回小児在宅ケア研究会総会が、年次集会と同日の8月15日に開催されました。報告事項として、現在の会員数(135名)の報告、平成24年度の活動報告が行われました。その後審議事項で、平成25年度の決算・会計監査、役員・運営委員の選出、平成25年度の活動計画(案)、平成25年度の予算(案)に関する審議が行われ、全ての事項について、承認が得られました。詳しくは、同封させていただきました総会資料をご覧ください。

【あとがき】

今年度から、会員の方のメッセージを載せさせて頂く事と致しました。皆様の中で、メッセージを載せてみたい方がいらっしゃいましたら、研究会までご連絡下さい。また今年度は、総会で承認されました、研究会のホームページ作成に本格的に取り組みたいと思っておりますので、楽しみにお待ちください。

8月も終わりとなりましたがまだまだ暑い日が続いております。お身体ご自愛ください。

*会員の方で連絡先等に変更がある場合は、研究会事務局までお知らせください。



(文責:堀妙子)